

SCHOOL DATA

〒290-0255 市原市光風台 2-535
 TEL.0436-36-5267 FAX.0436-36-3610
 ■児童数/68人 ■教職員数/9人 ■周辺環境/住宅地、水田、川辺
 平成22年5月1日現在



ビオトープ全景



児童による敷地内の樹木の移設

ビオトープの概要

- 場所/学校敷地内
- 面積/150㎡
- 設置者/光風台三育小学校ビオトープ整備実行委員会
- 設置した年/2010年
- 主な管理者/光風台三育小学校ビオトープ整備実行委員会

【生息している動物】

カエル、アキアカネ、ギンヤンマ、バッタ、カワニナ、コオロギ、キジバト、シジュウカラ、スズメ、ツバメ、ハクセキレイ、ムクドリ、ヒヨドリ

【生育している植物】

コガマ、スイレン、ショウブ、ナガバオモダカ、ミソハギ、セキショウ、トクサ、シロツメクサ、ウメ、カキ、クリ、ツツジ、ハナミズキ、ミカン、ヤマモモ、ユキヤナギ

<コンセプト>

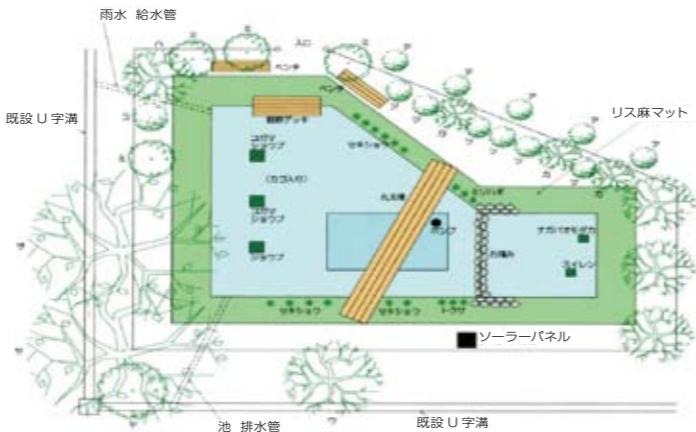
本校は、東京湾に面した市原市から約10km内陸に位置し、養老川に面しており、周囲は自然に溢れている。いわば、自然のビオトープの中に小学校が存立しているわけである。本校では、これまで、四季の植物観察、渡り鳥の飛来を観察等々を学習に取り入れてきた。平成20年からは、環境教育を強化するなかで、児童の生態系に対する関心が高まってきた。その流れの中で、自然観察池が欲しいという要望が、児童からも教師からも高まってきた。そこで、本年、ビオトープ作りに着手した。折しも、COP10の年でもあり、池の設置作業と平行して、児童は千葉県立中央博物館へ出かけ、生物多様性センター主査の齋木健一理学博士より、ビオトープ管理の手ほどきを受けた。猛暑の中、台風や雨天に影響を受けて工事が遅滞し、池に水が溜まりだしたのは9月末であった。しかし、1週間後には、かえるが住み着き、とんぼが産卵のため飛来するようになった。児童が近隣の水田の水路からカワニナをとってきた。来年には、とんぼの羽化を観察できればと願っている。児童は、蝶やホタルの生息する観察池を願っている。給水は、雨水用の側溝からと、学校にすでにある井戸水を充てる。

【今後生息・生育させたい生物】

蝶、ホタル

樹木表

表示	樹木名
ア	アジサイ
ウ	ウメ
カ	カキ
ク	クリ
サ	サクラ
ツ	ツツジ
ハ	ハナミズキ
ミ	ミカン
ヤ	ヤマモモ
ユ	ユキヤナギ



1年生による植樹と生け垣作り



池掘り作業を見学

ビオトープの活用方法

■児童

- ・現在、児童会を中心に活用方法を取りまとめている。
- ・ビオトープ委員会として活動させている。

■地域住民

- ・児童、職員、保護者、地域住民参加の環境保全活動や自然観察等の開催場所とする。

ビオトープの効果

■児童への効果

ビオトープ周囲の竹垣作りや、看板設置、などを児童が行い、また、生態系保全のため、何を育て、何を育てはいけないかを事前学習する中で、自分たちの学校内外の自然に対する意識の変化が見られるようになってきている。

■教職員への効果

生物多様性を学ぶ中で、生命尊重の意識が各自に深まっている。

■保護者・地域住民への効果

ビオトープ学習を通して保護者に、自然保護、生命尊重の本校のねらいが、よりよく理解されつつある。

■その他、期待される効果

太陽光発電で、水中ポンプを稼働することにより、環境を考えた学校の取組を、保護者の方々に理解していただけたと思う。



屋上より養老川と水田地帯の眺望

保護者・地域との連携

■保護者・地域住民

年に2回、保護者によるビオトープ清掃作業をお願いしている。これによりビオトープについての理解を深めていただく。

整備・活用・管理等の課題

- ・グラウンドの隅に設置したので、遊び場と観察池が隣接している。
- ・児童による管理規定を作って、事故がないように留意したい。

今後の展望

- ・蝶が生息できるように、観察池周囲にはミカンの苗木を植樹した。蝶の飛び交うビオトープが夢である。
- ・出来ることなら、ビオトープと隣接の養老川においてホタルが見られるようになることを夢見ている。
- ・渡り鳥が渡りの途中に立ち寄ってくれる様になればよいと大きな夢を抱いている。

整備担当者(教員、児童、保護者等)から

- ・当初の予定では、9月中の完成予定であったが、8月下旬以降台風その他の天候不順で、作業が大幅に遅れ、完成が10月末になってしまった。従って、児童の活動も始まったばかりである。



ビオトープ予定地で作業開始前に記念写真